

特集
4GIGAスクール自治体ピッチ第2弾を
実施しました1 GIGA スクール自治体ピッチ
第2弾の開催

GIGA スクール構想により導入された1人1台端末が更新時期を迎えることに伴い、2024年4月18日から19日の2日間、OSベンダー、端末メーカー、通信事業者等が、都道府県・市区町村教育委員会に対してプレゼンテーションを行う「GIGA スクール自治体ピッチ第2弾（以下「GIGA ピッチ第2弾」）」が主催：デジタル庁、共催：文部科学省で開催されました。

今回のGIGA ピッチ第2弾は、端末の初回導入の際に実施した前回2020年以来の第2弾であり、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを踏まえて、会場参加とオンライン参加のハイブリッドで開催。オンラインを含めて全国から2日間のべ約2000名が参加して教育DXについて共に考える大規模なものとなりました。



(デジタル庁 村上 敬亮 統括官)

2 2日間のプログラム

初日のセッションは主催者であるデジタル庁の挨拶で

幕を開けました。続いて文部科学省からGIGA スクール構想が改めて説明された上で、合同会社未来教育デザイン代表社員の平井聡一郎氏をファシリテーターに迎え、Google、Apple、MicrosoftのOSベンダー3社が登場し、端末更新に向けた各社のOSの性能や各社が掲げる教育事業へのビジョン、文部科学省から示された「教育DXに係るKPIの方向性」に対して、OSとして貢献できることなどについて、平井氏による質疑を交えたプレゼンテーションが行われました。



(文部科学省 寺島 史朗 課長)

その後、東京学芸大学の堀田龍也教授からのキーノートメッセージでは、学校現場で端末活用に加え、公教育を持続可能なものにするためのデジタルを活用した教職員の働き方改革など、長期的な視野に立った教育DXの必要性が語られたほか、経済産業省や総務省などの関連省庁からは、学校における1人1台端末の活用を支えるための各省の施策や事業等について情報提供がなされました。

2日目は、端末メーカーや通信事業者等から、保守や運用面のサポートを含めたより具体的な製品やサービスの紹介が行われました。関連するツールやデバイスの紹介に加えて、端末導入後の保守体制や効果的な活用方法にも重点を置いた提案となっていました。



(東京学芸大学教職大学院 堀田 龍也 教授)

3 端末更新は『使い倒す』を目的に

今回のピッチイベントは、2020年から取り組んできた端末の新規導入が一巡した後の更新に向けた取組であることから、各社の提案内容も単純な端末の調達提案にとどまらず、『使い倒す』ことをメインとした内容が目立ちました。2020年からの1人1台端末の運用によって生じた様々な事例や現場の声をフィードバックした提案は元より、データ活用型の教育をどのように現場で展開していくかを見据えた、より発展的な内容の提案も聞かれるなど、調達を担当する教育委員会だけでなく、様々な立場から聞きごたえのある内容になっていました。

GIGA スクール構想は新しい端末やソフトウェアを導



(合同会社 未来教育デザイン 平井 聡一郎 代表社員)

入すれば実現できるものではないという現場の課題に対し、専門的な知識を持つ事業者がアドバイザーとなり、現場と連携しながら取組を進めていく方法について、平井氏からは『伴走型』として取り上げられるなど、教育DXに取り組むためには教職員と事業者との協働が必要であるというメッセージが本ピッチでは一貫して示されました。

4 おわりに

今回のピッチでは当日登壇した事業者以外にも多数の参加希望がありました。時間等の都合により当日の登壇が叶わなかった事業者のプレゼンは動画公開の形を取り、現在は当日の録画映像を含めて全ての動画が公開されています。詳細は教育DX サービスマップサイトから、自治体ピッチ特設ページをご覧ください。

各自治体においては既にGIGA 端末更新に向けた検討を開始されているところと承知していますが、同サイトにはEdtech サービスについても様々な情報を掲載しているので、積極的に活用してください。

<https://ppp-education-dx.jp/>

(教育DX サービスマップ)